

## 「医療のひっ迫と感染の拡大を防ぐ取組（道案）」等に対する主な意見

## 1 有識者・専門家の意見

## 1-①

感染の減少傾向を見極めるため、引き続き「対策強化宣言」のもとで感染防止対策を講ずる必要があり、当面、1ヶ月程度を目途に宣言期間を延長すべき。

## 1-②

道案に異論なし。

高齢者の新規感染者数も全体とほぼ同程度の減少傾向にあるが、感染すると入院期間が長くなる傾向があるため、医療逼迫を防ぐためにも特に注意して頂きたい。重症者リスクの高い高齢者に接する際は、前もって抗原定性検査を受けることを引き続き周知していただきたい。

## 1-③

入院患者数は多いが、治療する側としては、従来株よりも患者さんの管理が容易になっている。現在の取組を継続していくべき。

## 1-④

道内の感染者数には減少傾向が見られるものの依然として病床使用率が高い地域もあることから、引き続き、保健・医療提供機能の充実を図りながら、道民や事業者に対する感染防止行動の徹底とワクチン接種の促進を図るとともに社会経済活動の再生に向けた取組を進めていくことが必要。

## 1-⑤

道案に異論なし。

有症者への検査キットの配付は、医療のひっ迫を軽減すると考える。中学生・高校生に比べ、小学生のワクチン接種率が低いと学校関係者から聞いており、小児ワクチンの有効性についての更なる啓発が必要。

## 2 市町村・関係団体の意見

## 2-①

感染状況が厳しい地域もあることから、取組案で示されている有症状の方への検査キットの配付、陽性者登録を行う「北海道陽性者登録センター」の早期の開設を要望する。